童

2011.9、30

大地の栗が今年は豊作です。先日は、こども達と拾い集めたら、なんと洗面器から溢れ出る程になりました。それも山栗としては、粒が大きい物です。放射能テストもしたので、大丈夫だと思いますが、念には念を入れ、今年は、生で食べることを遠慮しています。また、今年の稲も豊作で、黄金色に輝きながら、あちこちで稲刈り作業の音が響いて来る季節になりました。黄金色の中で、「素敵な３人組」の案山子は、やはり際立って目立ちます。こども達の散歩にあわせ、コンバインで刈り取る作業を間に合わせ、試乗しました。青ちゃんは、実は「農業」なんだと思ったでしょう。きっと、ますます青ちゃんの職業に混乱しているのではないでしょうか。来月は、稲刈り、脱穀と大地の実りの楽しみがあります。秋の好天に恵まれたいものです。

こんな、素敵な実りの季節の中で、淡々と季節を楽しんだ９月。お祭りを終えた途端、めっきり朝晩涼しくなり、あの猛暑が嘘のような気分です。秋の深まりをじっくり味わいながら、台風や豪雨の到来がないように祈りながら、素敵な秋を過ごしたいと思っています。

【お話】

４月から、東京子ども図書館に毎月１度、通い始めてから驚く位、お話や絵本に対する気持ちが変化してきたと同時に、たくさんの人との輪が恐ろしい程急速に広がっています。

まず、お話に対する厳しさと真摯な態度が自分の中に育っています。いままでは、適当に覚えていたのですが、今は、正確に何度も何度も読み返して覚えています。一つのお話を覚えるのに、毎日２時間位読み込んでも、最低３週間はかかります。私のように、気が早く、適当にぱっぱとやりたい性格にとっては、この日々じっくり覚えていく自分の姿には驚きです。そうしないと、長いお話は、覚えることが出来ないと実体験で学びました。毎晩、毎朝、お経のようにベッドの中で、お話を読み返し、覚えるのが日課となりました。

お話の講習生達（２５名ほど）がとても真摯に、誠実に、天使のような純粋な姿勢で、皆学んでいるので、その仲間に囲まれているので、その環境はとても大きいものです。更に、松岡先生という、日本のトップの絵本やお話の先生とご一緒させて頂き、さすが、その道のトップの偉大さ、器の大きさ、深さから学ぶべきものがたくさんあります。そんな、仲間に囲まれて、自分が新しい世界に挑戦出来、世界が広がり、人の輪が広がり、更に、それを子ども達に還す事が出来、高まっていく人生のおもしろさを痛感しています。

今年の２月から３月にかけて、妻と、大地を、お話や絵本やわらべうたを教育の基軸にして、大地と言えば　お話や絵本、わらべ歌だよね、とか　長野のお話の拠点にしたいという願いを持って、構想（他に、食と自然活動）を組み、それを目標と掲げました。妻は、お話を始めてから１０年来、松岡先生を大地にお呼びして、子ども達にお話をして頂くという（５年前に作った宝地図に記載）夢がありました。それが、９月の８日に実現しました。お話の部屋で、「３匹のくま」を豪快にお話して下さいました。夢のような光景でした。おまけに、妻の誕生日の前日でしたので、密かに松岡先生に、「妻の誕生プレゼントとして、妻にお話をして下さい」という願いを聞き届けて下さり、「ロマンチックなお話を持ち合わせていないわ」と言いながら、３０分以上にわたるロマン溢れるお話を、すぐにしてくださいました。

確実に、お話のエネルギーが大地に染み渡っていく手応えを日々こんな事からも感じています。

①スタッフ全員（まりちゃん、なみちゃん、青ちゃんのお姉ちゃんも皆お話を覚えました）が子ども達にお話をすることが出来ます。子ども達にとって、１番身近な人たちにお話してもらえるのは幸せです。

②毎朝のミーティングで、その日読む絵本を、全員の前で必ずスタッフが読み聞かせることも継続中。

③スタッフ全員が、最低２回、東京子ども図書館へわらべ歌などの講習会に参加してきて、自信を持って学んできています。

④青ちゃんの講習生仲間もどんどん大地へ訪れて、お話を子ども達にしてくれています。そして、大地の子ども達にお話を聞いてもらえることを、皆さん、とても楽しみにしてくれています。

⑤松岡先生をはじめ、藤本みさえさん、細川律子さん、腹話術の木村けいこさんや崎山さんなどは、東京で学ぶにつけ、その人達は、全国レベルの一流の方々だと実感して、その人たちにお話を聞けるなんて、子ども達はどんなに幸せなんだろうと、感激しています。

⑥更に、今回の、陸前高田市子ども図書館の建築依頼を受けて、お話や絵本の世界を通じて、その仲間たちと共に、自分の領域で支援出来ること。

全てが、ジグゾーパズルのように組み合って展開していくような日々を実感しています。来訪してくださる方々も「大地の子達のお話を聞く姿はすばらしい」・「大地の子ども達は特別だ」ともおっしゃって下さいます。
お話し姿勢とは、その態度だけでなく、お話を楽しむ心を持ち合わせている事です。だから、大地で話す事が楽しいとおっしゃって下さいます。この話は、小学生向きで長いから、幼稚園の子ども達には厳しいかもという話も、大地の子ども達なら聞き込んでしまうということは、多々あります。これは、日頃から聞き込んでいて、そのような脳と心になっているということです。これらは、とても地味で、外からは判断できない（手応えを感じる事ができない・目に見えない）精神と心の成長だけに、これこそが、大地で１番大切にしたいものです。

東京子ども図書館への講習生応募の動機に、妻と一緒に、全国の子どもの施設や大人の団体に、お話やわらべ歌を届けに旅をしながら、行脚して歩きたいと書きました。押しかけ、飛び込みでもお話を届けに回りたい、山へ登ったら、山小屋やテントサイトで、ヒッチハイクをしたら、車の中で、旅館へ泊まったら、その宴会の一環で、企業のセミナーに出くわしたら、大人向けのお話を、などとイメージが膨らみます。

それには、お話の世界を極めたいと思っています。それには、絶好の聞き手と環境が、大地には揃っています。いつもこんなすばらしい耳の肥えた観客が揃っており、この観客に育てられる事は幸せです。

「山の上の火」妻が話すお話で大好きな一つです。エチオピアの昔話ですが、長男（現在、南アフリカ滞在中）が、ケニヤ山、キリマンジャロに登山中に、お話の出てくる「スルタ山」の情景とだぶり、自分もその世界、旅をしているような気分にさせてくれます。お話は、いつも旅へ導いてくれます。